
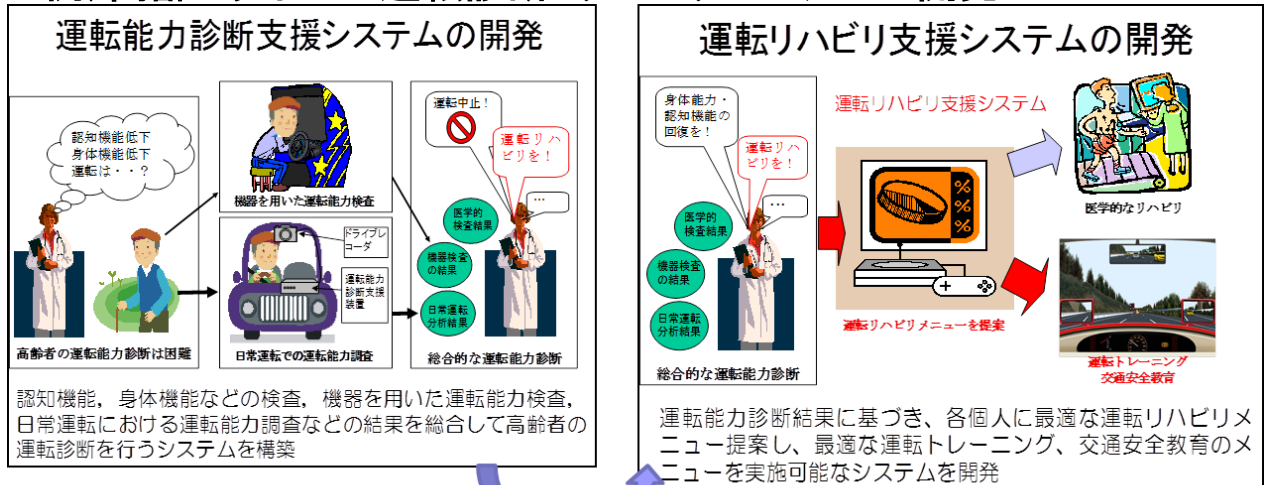


氏名・職名	伊藤 安海 教授	
キーワード	医療・福祉機器の開発、高齢ドライバー診断・リハビリ 人体損傷評価、ISO等の安全基準策定 自治体・住民との協働、法科学(科学捜査、鑑定)	
ホームページ	<a href="http://www.me.yamanashi.ac.jp/lab/ito/index.html">http://www.me.yamanashi.ac.jp/lab/ito/index.html</a>	
所属学会	自動車技術会、日本機械学会、日本法科学技術学会、日本転倒予防学会	
研究者から一言	<p>私は主に、医工連携による安全・安心な社会の実現に向け、<b>要素技術の開発から機器開発</b>、さらには<b>社会システムの構築に至るまでの幅広い段階における研究</b>を行ってきました。</p> <p>警察庁科学警察研究所で10年間、国立長寿医療研究センターで5年間、研究開発および社会実装に従事してまいりましたので、警察、医療の現場と連携した技術開発と比較的短期間での社会実装を目指した取り組みが中心です。</p> <p>安全・安心な社会の実現のために<b>医療・福祉、科学捜査、自動車・交通</b>といった分野での<b>技術開発、製品開発</b>にご興味があれば、お気軽にご相談ください。</p>	

## 【多分野連携による社会システムと要素技術の同時開発】

### 例) 高齢ドライバー運転診断・リハビリシステムの開発



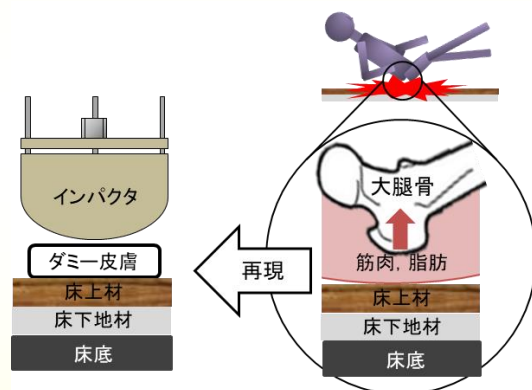
- 工学、医療など多分野の研究者と自治体が一体となったチームで社会実験(富士河口湖町シニアドライバー支援事業)を実施
- 身体・脳機能と運転能力の関係や運転リハビリの有効性を明らかにしてきました 【参考著書「文春新書 高齢ドライバー」】
- これらの知見を製品化・実装できるパートナーを募集しています

## □企業と連携して行えること

- ・**高齢者運転リハビリゲームの開発**  
(プロシステムは開発済み)  
社会実験(富士河口湖町シニアドライバー支援事業等)や教習所において実証実験が可能  
認知機能・身体機能などの指標との関係性を検証可能
- ・**人体損傷評価用ダミー皮膚およびコンピュータシミュレーションの開発**  
(プロシステムは開発済み)  
安全性評価用ダミー皮膚を利用した機器や用具の安全性評価も可能  
コンピュータシミュレーションによる高齢者や子供のリスク評価も可能
- ・**高齢者用体力測定機器の開発**(プロシステムは開発済み)  
(例)動的握力測定値による転倒リスク評価
- ・**科学捜査機器の開発**(既に全都道府県警察本部に導入実績有り)



開発した運転リハビリ装置の利用風景



床材転倒骨折リスク評価の模式図

## 適用できる製品・分野のイメージ

### ●科学捜査や事件・事故の鑑定用の機材

開発中のたな科学捜査技術(例えば高度な人体損傷評価)で必要となる資機材の製品化(コンピュータシミュレーションを活用した人体損傷鑑定法 等)

### ●安全性評価用の機器

開発中の人体損傷評価用ダミー皮膚を活用した機械・構造物の受傷リスク評価機器の開発や安全な製品の提案(転倒骨折予防床材、褥瘡予防マットレス 等)

### ●新たな社会システムを実現するための機器

超高齢社会における安全・安心を実現するために、社会システムの開発と連動した機器の開発(例えば、運転リハビリゲーム、生活見守り機器 等)

技術シーズについてのお問合せ、ご相談先  
Email: renkei-as@yamanashi.ac.jp  
Tel: 055-220-8758 Fax: 055-220-8757

